令和６年度　入学試験問題

国　語

（50分）

注　意

１　この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
２　問題用紙および解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
３　答えはすべて解答用紙に記入すること。
４　**字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「　」（　）などの記号を含んだ字数として解答すること。**
５　印刷がわからない場合は申し出ること。
６　試験終了の合図でやめること。

東京都市大学等々力高等学校

受験番号		氏名	

一

次の――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

1、任務を遂行する。
2、安穏な暮らしぶり。
3、勘定を済ませておく。
4、辞任を慰留する。
5、会社の将来を憂える。
6、情けヨウシャがない。
7、道路がフウサされている。
8、全権をショウアクする。
9、丁寧な取り組みがカンヨウだ。
10、単身でフニンする。

二

――線の言葉が正しく使われているものはA、そうでないものはBとして、それぞれ記号で答えなさい。

ア、うっかり寝坊をしてしまい、おもむろに家を飛び出した。
イ、前回大会の覇者として面目躍如の演技を披露した。
ウ、かなり落ち込んでいたら、彼女の屈託ない笑顔に癒やされた。
エ、毎年この時期は、あまりに忙しすぎて枚挙にいとまがない。
オ、大勢の前で話すのは初めてなので、腑に落ちないほど緊張している。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小説家の孝夫は医師である妻の美智子と東京にいたが、谷中村の実家で暮らし始める。孝夫は、阿弥陀様が祀(まつ)られた阿弥陀堂に一人暮らしをするおうめ婆さん、彼女の話を文章化し、村の広報紙に『阿弥陀堂だより』というコラムを載せている小百合ちゃん（喉の病気で話せない）と語り合っている。

小百合ちゃんの字は流れる字体でありながら読みやすかった。

「一回の『阿弥陀堂だより』を書くために、こんなに何度も取材に来るのかい」

小説を書くときの取材は一回きりの孝夫は、素朴な疑問をぶつけてみた。

小百合ちゃんはしばらく考えてからノートに書いた。

私の体調が悪いこともありますので、元気なときにできるだけたくさん聞いて、貯めておきたいのです。

ノートを見せた小百合ちゃんの笑顔はぎこちなかった。喉の肉腫(にくしゅ)の再発がないわけではない、と言っていた美智子の言葉を思い出して、孝夫はまずい内容の質問をしてしまったのを悔いた。

「言うと照れちゃうんだけど、おれは小説を書いているんだよ。新人賞をとってからもう十年以上になるんだけど本が出ない、そんな売れない作家のはしくれなんだけど……。ここ［A］原稿用紙から離れて、この村で体を使って働いてみて、原点ていうか、根っこっていうか、今のおれの原形みたいなものを見つけてから、書けたらまた書こうと思ってるんだよ」

①悔やんだ分だけ、孝夫は小百合ちゃんに対して裸の己をさらけ出そうとつとめた。

小百合ちゃんは両頬に固いえくぼを作って真剣に孝夫の話を聞いてからボールペンを手にした。

新人賞だけでもすばらしいです。小説が書ける人はうらやましいです。私も一作でいいから小説を書きたいのですが、根気がアなくてだめです。書き上げるには体力がいりますよね。体力のイない私には『阿弥陀堂だより』が精一杯のところです。

孝夫にとって声の出ない人の筆談に応じるのは初めての経験なのだが、答が文語調になってしまいがちな点さえ注意すれば、かえって考えをよくまとめられる会話法であった。

「以前、テレビのインタビュー番組で観たんだけど、生前の井伏鱒二(注1)が出ていてねえ、開高健(注2)から、書けないときはどうしたらいいんですかって聞かれて、いろはでもいいから毎日書いていなさいって［B］話してたよ。おれもやってみたけど、できそうでできないんだよな、これが。つい書いてしまうんだよ、つまらない文章をね」

老人だらけの山深い集落で、小説の話ができる若い女性にめぐり会えたのが素直にうれしくて、孝夫はよくしゃべった。

私は話すために書くので、書くために書くのがおっくうになってしまいます。それではいけないんでしょうけどね。

小百合ちゃんは小首をかしげた。

「そうかあ。そういうことがあるんだなあ」

声は出せなくても書けるのだから書けばいい、とありきたりのアドバイスをしようとしていた。②孝夫は脇の下に冷や汗をかいていた。

「小説っていうのは昔話のようなもんでありますか。ふんとの話でありますか、うその話でありますか」

黙っていたおうめ婆さんが［C］割って入った。

「うその話ですけど、ほんとのことを伝えるためのうその話って言ったらいいかな。畑から抜いたままのゴボウは食えないけど、アクを抜いてキンピラにすれば食える。キンピラと畑から抜いたゴボウは、どちらがほんとのゴボウかっていったら畑から抜いた方だけど、ゴボウのうま味はキンピラでないと分からないってとこですかねえ」

孝夫は③事実と虚構について説明しようとして失敗した。おうめ婆さんは口を半分開いて呆然としていた。

④小説とは阿弥陀様を言葉で作るようなものだと思います。

小百合ちゃんはノート一ページに大書しておうめ婆さんの前に広げた。

「おう、これだらよく分かるであります。わしにも分かるであります」

おうめ婆さんは小百合ちゃんに向かってかしわ手を打った。

小百合ちゃんは困って下を向いてしまった。孝夫は説明の敗北を認めてしきりに頭を掻いた。

「わしゃあこの歳まで生きて来ると、いい話だけを聞きてえであります。たいていのせつねえ話は聞き飽きたもんでありますからなあ」
おうめ婆さんは文章を書く二人に小説のあるべき姿に関する説教を垂れた。
「世の中にいい話っていうのは少ないから、ほんとらしく創るのって大変なんですよ。だから、小説には悲しい、やるせない話が多くなってしまうんですよ」
愉快な小説は悲劇よりも書きづらいのを知っている孝夫は自戒の意を込めて答えた。
「金出して本買って、せつねえ話を読まされるじゃあたまらねえでありましょうや。うれしくなりたくって金を払うじゃあありますまいか」
おうめ婆さんが同意を求めて下から見上げてきたので、小百合ちゃんは何度もうなずきながら白い歯を見せた。
尋常小学校しか出ていないので漢字もよく読めないおうめ婆さんだったが、話題に対する反応のよさには老人特有の鈍さが少しも感じられない。長く生きてきた老人の言うことだから仕方なく肯定するのではなく、道理に合っているから納得せざるを得ないのである。各集落に堂守の老婆はいるはずだが、小百合ちゃんが六川（むかわ）のおうめ婆さんに目をつけたのは正解であった。
「『阿弥陀堂だより』っていうタイトルを考えたときは、各集落の阿弥陀堂守から話を聞くつもりだったんだけど、やっぱりおうめ婆さんに並ぶ人はいなかったってことかなあ」
小百合ちゃんと対話するときは、こちらから相手の考えていそうなことを推察してやる必要があった。さもないと、彼女はノートにびっしりと語りたい内容を書きつらねなければならなくなってしまう。
小百合ちゃんは一行で返事をくれた。

そのとおりです。

よく分かりましたね、と言いたげに小百合ちゃんは目を丸くした。
「わしゃあ自慢じゃねえでありますが、ここに入ってから四、五十年になりますが、六川から出たことはねえでありますから、よその阿弥陀堂にどなたさんがいるだか知らねえでありますよ」
おうめ婆さんはとんでもない事実を何気なく話すのが得意だった。
「四、五十年って言ったら、おれの生まれる前ですよ。ほんとですかあ」
孝夫はとっさに時間のスケールを修正できなかった。
「あんたさんとこのおせいさんだって村から出たこたあなかったはずでありましょうや」

おうめ婆さんに言われてみれば、たしかに孝夫の記憶にある祖母は歩いて森平集落に行くくらいで村からは出ていなかった。

「森平の診療所になんかはかかったことはないんですか」

「ねえであります」

「役場にも行かないんですか」

「用がありゃあこの娘さんのように向こうから来てくれるであります」

おうめ婆さんは実に簡単に答えてくれた。

孝夫はあらためて阿弥陀堂の破れ畳の上にちんまりと坐った皺だらけの老婆を上から下まで眺めてみた。それから、六川の集落と遠くの山脈へ視線を移して行った。空に昇るしか抜け道のないこの閉じた風景だけを見て四、五十年も生き続けることができるのだな、と思い至ると、人間の精神の底力を見せつけられるようで、無性に胸が熱くなってきた。

（南木 佳士「阿弥陀堂だより」より）

（注１）「井伏鱒二」 …… 日本の小説家。

（注２）「開高健」 …… 日本の小説家。

問一、[A]～[C]にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、A―最近は　B―ぼんやりと　C―突然
イ、A―ずいぶん　B―しっかりと　C―きっぱりと
ウ、A―少々は　B―何となく　C―淡々と
エ、A―しばらくは　B―淡々と　C―突然

問二、――線①「悔やんだ分だけ」とありますが、孝夫は何を「悔やんだ」のですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、新人賞まで受賞しながら小説を書けないでいる自分の不甲斐なさ。
イ、あまりにも素朴な質問を投げかけてしまった自分の単純さ。
ウ、小百合ちゃんの喉のことを考慮しなかった自分の無神経さ。
エ、美智子の言葉を忘れてしまっていた自分の記憶力の無さ。

問三、═══線ア～ウの「ない」のうち、他と品詞が異なる単語を一つ選び、記号で答えなさい。

問四、――線②「孝夫は脇の下に冷や汗をかいていた」とありますが、それはなぜですか。その理由を具体的に説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、指定された字数でそれぞれ考えて答えなさい。

人よりも優れた[1、四字]を持ち、[2、四字]も出来る自分が、[3、四字]しか手段のない小百合ちゃんの状態を想像できなかったから。

問五、――線③「事実と虚構」とありますが、「事実」と「虚構」を具体的な比喩を使って表現している部分を文章中から探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

問六、――線④「小説とは阿弥陀様を言葉で作るようなものだと思います」について、生徒達が次のように話し合いました。会話の中で適当でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、生徒A――阿弥陀様というのは、阿弥陀仏のこと。阿弥陀仏は西方にある極楽浄土の宗祖。辞書的にはそういう説明になるけど、仏様のことでしょ？　でもここでは、阿弥陀如来像、つまりは仏像のことだろうね。

イ、生徒B――おうめ婆さんがお守りしている阿弥陀如来像のことなんだろうね。

ウ、生徒C――阿弥陀如来という仏様は本当にいるのかどうかは分からない。木で像を造り、それを人々が見られるようにしたんだね。

エ、生徒D――全くの虚偽であるものを真実らしく見せようとする姿勢の中にこそ小説家の醍醐味があるんだろうね。

オ、生徒E――阿弥陀如来像を守るおうめ婆さんだから、小百合ちゃんの説明を心底理解できたと思う。

カ、生徒F――阿弥陀如来像が大切で価値ある存在なら、おうめ婆さんは同じことを小説にも求めてるね。それが二人への「説教」に表れているよね。

問七、この文章を通しておうめ婆さんはどのような人物として描かれていますか。おうめ婆さんの人物像として適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、閉じた空間の中で四、五十年も生き続ける精神力を持った人物。

イ、もし困ったことがあっても何とでもなると思い切っているような人物。

ウ、切ない話などを聞くことにすら抵抗感を持つような快楽主義的な人物。

エ、漢字もよく読めないが物事の本質を見抜ける考察力や洞察力を持った人物。

問題は次ページに続きます。

四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「わかる」というのは、物事の意味を理解することだと言ってよいであろう。①ただ暗記するのではなく、その意味を理解することが重要である。暗記も重要だが、それは理解への第一歩として重要なのである。

A　、質量がエネルギーと等価であることを暗記しても、それが何を意味するのかを理解しなければ、ほとんど何の役にも立たない。「質量はエネルギーと等価か」と問われて、正しく「イエス」と解答できるくらいが関の山で、原爆がなぜ膨大なエネルギーを生み出せるのかといった問いに答えることはできない。また、困っている人は助けるべきだということをただ暗記しているだけで、その意味を理解していなければ、自力で困難を乗り越えようとしている人まで助けてしまい、お節介だということになりかねない。

B　、意味を理解することが重要だとして、その意味とは何だろうか。意味をもつものとしては、まずは言葉（あるいは一般に表現）が思い浮かぶだろうから、言葉の意味とは何かということから考えてみよう。

言葉が意味をもつというのはふつう、言葉がある特定の物事を表すことだと考えられよう。「イヌ」という言葉はイヌを表し、「地震」という言葉は地震を表す。これらの言葉がそのようなものを表すことが、それらが意味をもつということだ。かりにこの考えが正しいとして、それでは「イヌ」がイヌを表し、「地震」が地震を表すというのは、どのようなことなのかをさらに問うてみよう。

この問いにたいして、「イヌ」という言葉は私たちの心のなかでイヌのイメージと結びついており、このイメージを介してイヌを表すという説がある。これは②意味の「イメージ説」とよばれる。イヌのイメージはイヌとよく似ているから、イヌを表す。したがって、「イヌ」はそれと結びついたイヌのイメージを介してイヌを表すことになるというわけだ。

C　、もしそうだとすれば、結びつく特定のイメージがない言葉の場合は、どうなるのだろうか。「民主主義」と結びつく特定のイメージはないだろう。D　、「民主主義」はイメージを介して民主主義を表すわけにはいかない。また、「理性」という言葉と結びつく特定のイメージもないから、「理性」もイメージを介して理性を表すわけにはいかない。

意味のイメージ説に代えて、ウィトゲンシュタインという二〇世紀を代表する哲学者が③意味の「使用説」を唱えた。言葉は私たちの日々の営みのなかでさまざまに使用される。言葉を用いて行われるこのような営みをウィトゲンシュタインは「言語ゲーム」とよぶ。それぞれの言葉は言語ゲームのなかでその言葉に特有の仕方で用いられる。「イヌ」は、たとえば、イヌが眼のまえにいるときに「イヌだ」と発話され、「可愛いね」という聞き手の言葉を誘発し、イヌに近寄るという行動を引き起こす。これは「トラ」の使われ方とは大きく異なる。「イヌ」がイヌを意味するのは、「イヌ」がそのような仕方で使用されるということであり、「トラ」がトラを意味するのも、「イヌ」とは別のある特定の仕方で使用されるとい

うことである。

④言葉の意味とはその使用だということは、言い換えれば、言葉の意味とはその「働き」だと言えよう。イヌが眼前にいるときに「イヌだ」と発話し、イヌに近寄る動作を引き起こすといったことは、「イヌ」という言葉が言語ゲームにおいてそのような働きをもつことにほかならない。

また、⑤言葉だけではなく、物事も意味をもちうる（ここでは「物事」という言葉を物と出来事の両方を含む広い意味で用いる）。物事の意味についても、言葉の意味と同じ考え方が適用できる。つまり、物事の意味もその物事に特有の働きとして捉えることができる。

たとえば、ロシアのウクライナ侵攻が歴史の大きな転換点を意味するということは、それが歴史を転換させる働きをすることである。また、将棋のこの一手が勝利の確定を意味するということは、それが勝利を確定させる働きをすることである。私たちはある出来事にはどんな意味があるのか、ある一手は何を意味するのかと問うが、それはこの出来事やその手がどんな働きをするのかを問うているのである。

言葉にせよ、物事にせよ、それらの意味とはそれらの働きにほかならない。それらが何を表すかということも、それらがどんな働きをするかということから決まる。「イヌ」がイヌを表すのは、それが言語ゲームにおいてある特定の働き（とくにイヌがいるときに、「イヌ」と発話されるという働き）をするからであり、将棋の一手が勝利の確定を表すのも、それがその対局においてある特別な働き（まさに勝利を確定させる働き）をするからである。

意味が働きだとすれば、意味を理解することは働きを理解することである。言葉にせよ、物事にせよ、ただそれを暗記するだけではなく、その意味を理解することが重要だというのは、ようするにそれがどんな働きをするのかを理解することが重要だということなのである。

意味とは何かが見えてきたので、つぎに「理解」についても考えを深めてみよう。意味の理解には、浅い理解もあれば、深い理解もある。たとえば、太郎は「恥ずかしい」という言葉の意味をごく浅くしか理解していないが、文学好きの花子は深く理解している。しかし、歴史好きの太郎はX壬申（じんしん）の乱の意味を深く理解しているが、花子は通り一遍の浅い理解しかもっていない。また、太郎はピタゴラスの定理の意味をごく⑥表面的にしか理解しておらず、その証明もできないが、花子はそれを深く理解していて、証明もできる。

それでは、理解の深浅とは何であろうか。さきに述べたように、意味が働きだとすれば、理解の浅さと深さの違いは、言葉や物事の働きをどれくらい詳しく理解しているかの違いとして説明できよう。

言葉はいろいろな文脈で用いられる。「恥ずかしい」という言葉は、教室で先生にあてられてうまく答えられなかったときに「ああ、恥ずかしい」と言って、みなの失笑を誘うという仕方で用いられるだけではなく、優秀な子と比べられて「恥ずかしくないの」と言われて「フン」とむくれるという仕方で用いられもする。「恥ずかしい」という言葉が用いられる文脈はさまざまであり、どの文脈でもつねに同じ働きをするわけではない。むしろ、用いられる場面や引き起こす反応が異なるので、文脈に応じて異なる働きをすると言ったほうが正確であろう。したがって、「恥ずかしい」という言葉の理解には、少数の文脈での働きしか知らない場合と、多数の文脈での働きを知っている場合の違いがあることになる。言葉の

意味の理解の浅さと深さの違いは、どれくらい多くの文脈でその言葉の働きを知っているかの違いとして説明できよう。

同じように、物事の意味の理解についても、その浅さと深さの違いは物事の働きをどれくらい詳細に知っているかの違いとして説明できる。

（中略）

しかし、⑦たんに出来事自体の内容を詳しく知るだけで、その経緯と結果をまったく知らなければ、やはりその出来事の意味を理解したとは言えない。出来事自体の内容はその出来事がどんな経緯で起こり、どんな結果をもたらしたかということと切り離せない深いつながりがあるが、このつながりを理解してこそ、出来事の意味を理解したと言える。したがって、出来事の意味を深く理解するためには、あくまでもその出来事の経緯と結果を詳しく理解しなければならないのである。

（信原 幸弘「『覚える』と『わかる』」より）

問　一、――線①「ただ暗記するのではなく、その意味を理解することが重要である」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、物事の意味を理解せずにただ暗記しただけだと、より深い専門的な問いには太刀打ちできないから。
イ、物事の意味を理解せずにただ暗記しただけでは、その物事に特有の働きを理解することができないから。
ウ、物事の意味を理解せずにただ暗記しただけだと、相手にとってお節介な行動をとってしまう危険があるから。
エ、物事の意味を理解せずにただ暗記しただけでは、物事の意味が文脈に応じて異なることに気がつかないから。

問　二、［A］～［D］にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア、たとえば　イ、それゆえ　ウ、しかし　エ、つまり　オ、では　カ、むしろ

問　三、――線②「意味の『イメージ説』」・③「意味の『使用説』」は、それぞれどのような説ですか。「意味の『イメージ説』」を前者、「意味の『使用説』」を後者とし、六十字以内でまとめて答えなさい。

問四、――線④「言葉の意味とはその使用だということは、言い換えれば、言葉の意味とはその『働き』だと言えよう」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、言葉は使用の仕方によって全く異なる作用を与えることがあるため、使用した言葉が実際に発話者の意図通りに働いたのかを検証しないと、その言葉の使用に意味があったのかが分からないということ。

イ、使用されてはじめて言葉の意味が聞き手に了解されるとしても、特定の仕方で使用された言葉は毎回同じ反応を誘発するので、使用以前から言葉には働きとしての意味が備わっていると結論できるということ。

ウ、言葉を使用する仕方は、目の前の具体的な物事を直接指し示したり、イメージできない抽象的な概念を言語化したりと様々だが、言葉が何かを意味するということ自体は働きとして共通しているということ。

エ、言葉の使用の仕方に応じて言葉の意味がその都度聞き手に推定されているのだとすれば、特定の場面や状況下でその言葉がどのような働きを持つかということがその言葉の意味であると見なせるということ。

問五、――線⑤「言葉だけではなく、物事も意味をもちうる」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、言葉が意味を持つのは言葉を使用する際にそれぞれ特有の仕方で使用されるからであるように、物事が起こる際にもそれぞれ特定の状況の中で特有の生じ方をするものだから。

イ、言葉が意味を持つのは言葉が具体的なイメージを介して物事と結びつくことであるように、物事においてもある状況で起こった出来事が特定のイメージを喚起させることがあるから。

ウ、言葉が意味を持つのは言葉を使用する上で言葉が特定の働きを持つことであるように、物事においてもある状況の中で起こった出来事が特定の働きを持つことがあるから。

エ、言葉が意味を持つのは言葉が文脈に応じて異なる反応を誘発するからであるように、物事においても特定の出来事がもたらす結果が発生時の状況に応じてそれぞれ異なるから。

問六、――線⑥「表面的」とありますが、ここでの文脈における対義語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、裏面的　イ、深層的　ウ、内実的　エ、本質的　オ、根源的

問七、――線⑦「たんに出来事自体の内容を詳しく知るだけで、その経緯と結果をまったく知らなければ、やはりその出来事の意味を理解したとは言えない」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、出来事の内容の理解はその出来事の働きの理解と同じであり、その意味ではその出来事だけでなくその前後の状況との関係性も含めて深く理解する必要があるということ。

イ、出来事の内容の理解はその出来事に関する詳細な知識を有することであり、その意味ではその出来事に関連する可能な限り多くの情報に触れる必要があるということ。

ウ、出来事の内容の理解はその出来事の起こった文脈を正しく理解することと同じであり、その意味ではその出来事が発生するに至った背景を詳細に知る必要があるということ。

エ、出来事の内容の理解はその出来事が後世に与えた特別な働きを理解することと同じであり、その意味ではその出来事の歴史的意義を正確に理解する必要があるということ。

問八、――線X「壬申の乱の意味を深く理解している」とありますが、歴史が大好きな六人の生徒が「壬申の乱」について次のように話し合いました。本文の趣旨を踏まえた上で「壬申の乱の意味を深く理解している」ことにあてはまらない発言を一つ選び、記号で答えなさい。

ア、生徒A――壬申の乱というのは、天智天皇の死後、六七二年に天皇の子の大友皇子と天皇の弟の大海人皇子が皇位継承をめぐって争った内乱のことだね。古代史上最大の武力による内乱と言われているよね。「壬申の乱」という名称の由来は、確かこの年が干支で壬申（みずのえさる）にあたることによるんだったよね。

イ、生徒B――その通り。天智天皇の後継者は、本来は同じ母から生まれた弟の大海人皇子だったんだ。それなのに天智天皇が我が子かわいさから、大友皇子の方を後継者にしたいと望むようになったのが、この内乱のきっかけだと言われているね。

ウ、生徒C――そうそう、当時は同母兄弟間で皇位継承する慣例があったし、そもそも大友皇子のお母さんは側室で身分の低い女性だったから、長男とはいえ大友皇子には正当な皇位継承権はなかったはず。それなのに天智天皇は皇位継承の意向を朝廷内に示すために、次期天皇であることを意味する太政大臣に大友皇子を就任させたんだ。ずいぶん強引なことをしたよね。

エ、生徒D――確かに強引だけど、なにしろ当時の天智天皇は、朝廷内では独裁的な状態にあったらしいからね。だから大海人皇子も身の危険を感じて、天智天皇が強硬手段に出る前に奈良の吉野に移住して、頭を丸めて僧となったんだ。「政治にも天皇という地位にも興味がありません」というアピールだね。ところが、天智天皇が病死したことで事態が大きく変わったんだ。

オ、生徒E――結果的にこの乱に勝利した大海人皇子は即位して天武天皇となったわけだけれど、その権威は絶大で、豪族勢力を抑えて天智天皇のとき以上に中央集権的な国づくりが進むことになるんだよね。でも、こんなに大規模な内乱の後で、どうしてそんなことが可能だったのだろうね。

カ、生徒F――それは、力を持っていた有力な豪族たちが敗者の大友皇子側についていたからだよ。その一方で、大海人皇子の味方についてくれたのは小中規模の地方豪族たちだったんだ。だから即位後の天武天皇をおびやかすほどの勢力はなくて、天皇の支配下に置くことは割と簡単なことだったんじゃないかな。

五　次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

伏見修理大夫俊綱(注1)の家にて、人々、「水上の月」といふことをよみて講じ(注2)けり。時に田舎より上りたる兵士、中門の辺にて聞きけるが、青侍(注3)をよびて、「①今夜の題をこそ仕りて候へ」といふ。侍、「興あることなり。いかに」ととへば、

水や空空や水とも見え分かずかよひてすめる秋の夜の月

侍来たりて、このよしを申す。人々驚きほめて、詠吟して、恥ぢあへりけり。

同人(注4)、播磨(注5)へ下りけるに、高砂(注6)にしておのおの歌よむ。大宮先生義定といふものの歌に、

我のみと思ひこしかど高砂の尾上の松もまた立てりけり

人々感じあへり。

良暹(注7)、そのところにありて、「②女牛に腹突かれぬるわざかな」とぞいひける。

【文章Ⅱ】

ある所に女房あまた居て、箏(注8)ひくに、琴柱(注9)のはしりて失せたるを、さるべき男もなければ、宿直人(注10)の見ゆるをよびて、「かの前栽(注11)の中に、楓の木、二またに、これほど、しかしか切りて来」とこまかに教へてやりつ。

「③はかばかしきことあらじ」といふほどに、切りて、もて来にけり。簾のもとによりて、「この④かり琴柱、参らせ候はむ」といひ出でたるに、思はずにあさましくて、「こまごまと教へつる、いかにをこがましく思ひつらむ」と恥ぢあへりけり。

（ともに「十訓抄」より）

（注1）「伏見修理大夫俊綱」……橘俊綱。平安時代の貴族・歌人。「伏見修理大夫」という呼称は、伏見山荘を別邸としたことと、官職が「修理大夫」だったことによる。伏見山荘は風光明媚な地で、当時から観月の名所として知られていた。

（注2）「講じ」……詩歌を披露すること。

（注3）「青侍」……貴族の家に仕える官位六位の侍。青色の服を上下に着用していた。

（注4）「同人」……俊綱を指す。

（注５）「播磨」……現在の兵庫県西部に相当する令制国名。
（注６）「高砂」……現在の兵庫県高砂市付近の地名。和歌の題材とされた名所旧跡。
（注７）「良暹」……平安時代中期の僧・歌人。
（注８）「箏」……日本の伝統楽器の一つ。
（注９）「琴柱」……和琴（わごん）や箏を演奏する際、胴の上に立てて弦を支え、その位置によって音の高低を調節するもの。
（注10）「宿直人」……宮中や役所、貴人宅などに泊まって勤務し、警備守護などをする人。
（注11）「前栽」……庭先に植えた草木。

問　一、――線①「今夜の題をこそ仕りて候へ」の解釈として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、今夜の歌の題で、私も歌をお作りいたしました。
イ、今夜の歌の題こそ、私が最も得意とするものです。
ウ、今夜の歌の題の景色を、私は実際に見たことがあります。
エ、今夜の歌の題がどのようなものか、私にもお教えください。

問　二、――線②「女牛に腹突かれぬるわざかな」の解釈として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、気性の荒い牝牛（めうし）に腹を突かれるくらい無防備なことだ。
イ、おとなしい牝牛に腹を突かれるくらい予想外のことだ。
ウ、気性の荒い牝牛の腹を小突くくらい度胸のあることだ。
エ、おとなしい牝牛の腹を小突くくらい気が小さいことだ。

問三、――線③「はかばかしきことあらじ」と思ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、女房達にも琴柱をどこで無くしたのか確信がなく、見つかるか不安だったから。
イ、懇切丁寧に説明はしたものの、声をかけた宿直人が理解力に欠けた男だったから。
ウ、指示した通りの物を用意するには、かなりの時間がかかるだろうと考えたから。
エ、琴柱がどのようなものであるか、宿直人は知らないに違いないと思ったから。

問四、――線④「かり琴柱」の「かり」には二つの意味が掛けられています。一つは「雁」の意味で、琴柱が二股に分かれていて雁の飛ぶ姿に似ていることに由来しています。他にもう一つ掛けられている意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、狩　イ、借　ウ、仮　エ、駆

問五、この文章の出典である「十訓抄」は、十の章立てごとに教訓が書かれた説話集です。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】のエピソードから共通して得られる教訓として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、思い上がりを避けるべきだということ。
イ、人を馬鹿にしてはいけないということ。
ウ、ひたすら思慮深くあるべきだということ。
エ、種々の事柄を耐え忍ぶべきだということ。

用紙ヨコ　上　こちらを上にしてください

令和6年度

高等学校入学試験問題　〔国語〕　解答用紙　（二月十三日）

注意事項

・解答は解答欄の枠内に濃くはっきりと記入して下さい。
・解答欄以外の部分には何も書かないで下さい。

氏名

受験番号

①	②	③	④
⓪	⓪	⓪	⓪
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨

評価点

五	四	三	二	一

八	七	六	五	四	三	二				一
						D	C	B	A	

七	六	五		四			三	二	一
		虚構	事実	3	2	1			

オ	エ	ウ	イ	ア

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

〈受験生はこれより上段には記入しないこと〉

一

1	遂行
2	安穏
3	勘定
4	慰留
5	憂（える）
6	ヨウシャ
7	フウサ
8	ショウアク
9	カンヨウ
10	フニン

二

ア

イ

ウ

エ

オ

三

問一

問二

問三

問四

1

2

3

問五

虚構	事実

問六

問七

四

問一

問二

A

B

C

D

問三

60	50	40	30	20	10

五

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八